



市職員を追加募集

市は、22年4月採用の市職員を次のとおり募集します。
本年度の採用試験はすでに終了しましたが、早期退職などで職員定数に不足が生じたため、追加募集を行うものです。
より良い市政のために、若い力をお貸しください。

■職種（採用人員）

- ①一般事務（初級）（2人）
- ②保健師（2人）
- ③管理栄養士（1人）
- 採用年月日 平成22年4月1日
- 受験資格
- ①一般事務（初級）：平成2年4月2日以降に生まれた人で、高等学校以上の学歴を有する人（22年3月までに



高等学校を卒業見込みの人を含む）

- ②保健師：昭和54年4月2日以降に生まれた人で、保健師免許を有する人（22年5月までに保健師免許を取得する見込みの人を含む）
- ③管理栄養士：昭和54年4月2日以降に生まれた人で、管理栄養士免許を有する人（22年5月までに管理栄養士免許を取得する見込みの人を含む）

■試験日時 22年1月31日（日）午前8時45分～

■試験会場 奥州市役所

■申込期限 22年1月14日（日）

- 申し込み方法 市役所総合案内や各総合支所総務企画課、市ホームページにある受験申込書に必要事項を記入し、本庁総務課に提出。申し込みを郵便で行う場合は、封筒に「職員採用試験受験申込み」と朱書きし、350円分の郵便切手を同封の上、特定記録、簡易書留または一般書留郵便で本庁総務課へ申し込む
- 問い合わせ・申込先 本庁総務課職員係（〒023-8501 ※住所の記載不要 内線437・438）



雇用・金融相談窓口

経済状況の低迷で雇用環境が悪化する中、市や県では、雇用や暮らしなどに関する相談窓口を開設しています。離職などで困っている人は、1人で悩まず、各相談窓口へお越しください。

【経済・雇用総合相談窓口】

- 開設日時 平日の午前8時半～午後5時15分（年末年始を除く）
- 開設場所 本庁企業振興課（市役所3階）、各総合支所商工担当課
- 相談内容 雇用・住居・生活資金の悩みなど
- その他 12月29日（日）、30日（月）は本庁企業振興課でのみ窓口を開設
- 問い合わせ 本庁企業振興課人材育成・労政係（内線372）

【年末金融110番】

- 開設日時 12月29日（日）、30日（月）午前8時半～午後5時15分
- 開設場所 本庁商業観光課（市役所3階）
- 相談内容 市内事業者を対象とした融資あっせん手続きなど
- その他 印鑑証明書・納税証明書の発行も可能
- 問い合わせ 本庁商業観光課商業振興係（内線362）
- 【いわて求職者総合支援センター】
- 開設日時 平日の午前8時半～午後5時（年末年始を除く）



- 開設場所 メイプル地下1階
- 業務内容 雇用関係情報の提供、生活・就労相談、雇用関係セミナーの開催など
- 問い合わせ いわて求職者総合支援センター（☎6331）



漆器加飾工
及川守男さん（66）
＝胆沢区若柳字明神下＝

衣川区増沢地区で作られてきた伝統の漆器「増沢塗」。長年受け継がれてきた製法を現在に伝えるのが及川守男さんです。
及川さんは昭和18年、増沢塗を手掛ける父と母の間に生まれました。増沢地区は、漆器作りや炭焼きが盛んな「職人」の集落でしたが、昭和31年、ダム建設によって水の底に沈んでしまいます。胆沢区に漆林団地の造成が行われ、及川さん一家も移転しました。しかし、集落がバラバラになったことで、増沢塗は徐々に低迷していきます。
中学を卒業した及川さんは「いい職人になるためには、よその仕事も見なければ」と考え、秋田県稲庭町（現・湯沢市）の職人に弟子入り。師匠の加藤勝一さんから、職人としての技術はもちろん、「人を大切にする

こと」を学びました。父の六三郎さんからは、増沢塗りの技法を継承。左手が不自由な体でも、母と協力して増沢塗を作り続けた父の姿から「物事をあきらめないこと」を教わりました。
及川さんは、職人として多くの漆器を世に送り出す傍ら、漆器の調査研究にも取り組んでいます。昨年は秀衡塗の原型といわれる秀衡碗の復元に成功しました。人とのつながりを重視し、直接販売へのこだわりをお持ちです。「人の話を聞くことで工夫が生まれ、良いものができるから」と、その理由を語ります。
今回の受賞を受けて「ほかの産地には優秀な職人がたくさんいる。長く続けてきたことのけじめとして受け止める。誰かの励みになればいい」と、照れくさそうに話していました。

伝統工芸や工業技術などの分野で卓越した技能を持つ人に贈られる「卓越技能者（現代の名工）」の受賞者が発表されました。本市からは、漆器職人の及川守男さんと板金職人の鈴木正二さんのお二人が選ばれました。受賞おめでとうございます。



建築板金工
鈴木正二さん（67）
＝前沢区字赤面＝

現代の名工

平成21年度卓越技能者表彰

「今まで手掛けてきた仕事の修復依頼がないことが自慢」と誇らしい表情を見せる鈴木正二さん。「維持・保守作業の必要がない仕事」をモットーに、県内を中心に100カ所余りの寺社の屋根を手掛けてきました。ほかの人がやらないことや、見えない部分を大切に丁寧な仕事ぶりが、施工主からの信頼につながっています。
鈴木さんは、15歳のときに平泉にある板金会社に就職。職人としての第一歩をスタートしました。ある日、中尊寺本坊の銅版屋根作業に来ていた職人の技術に触れ、後世に残る寺の仕事に魅せられていきます。一念発起した鈴木さんは、その職人を頼って上京。帰郷するまでの5年間、寝る間も惜しんで板金の腕を磨きました。

30歳で独立。培ってきた技術と経験で、数々の仕事を積み重ねてきたほか、後進の育成にも当たりました。「技を盗むも教わるも本人次第」と考え、弟子への指導は特に行いませんが、大きな仕事のときは弟子たちが集結し、一丸となって仕事に挑みます。
心に残っている仕事は、藤原の郷にある無量光院の修復作業。建物が実物の4分の1の縮尺だったため、金づちなどの工具すべてを4分の1の大きさで作成。困難な作業を見事にやり遂げました。
現代の名工に選ばれた今、「下手な仕事はできない」と気を引き締める一方、「昔の職人が残してきた素晴らしいものを、1つでも多く残していきたい」と、情熱は衰えません。